

OB会通信

応援委員会指導部

山田 駿也

2015年11月卒業
(高校67回生)



この度銀友編集委員の大先輩からご連絡いただき、高校在学時に発足させた応援委員会指導部についてご紹介の機会を頂きました。と、まずもって御礼申し上げます。二〇一五年三月に本郷高校を卒業しました山田と申します。

応援委員会指導部は、体育祭や本郷祭、それに部活動の応援などの場面で、組織立った応援を指揮し実行することを主な活動としていた団体であり、二〇二二年に発足しました。それまでも「応援団」というものは本郷にありましたが、

体育祭の期間限定で存続していたためそのノウハウをなかなか翌年度以降に引き継ぐことが難しいといった意見がありました。そこで、常設団体として通年にわたって本郷、本郷生を応援したいという意思の下、国語科の横尾朗大先生と同期三人とともに高校一年時に立ち上げました。

発足直後の在籍数はわずか七人でしたが、現在では三十七人(令和元年度)まで部員は増加し、その活動内容も校内での活動にとどまらず、毎年静岡で開催される高等学校応援団フェスティバルへの参加やテレビ番組出演など多岐にわたっています。

昨年、これまでの活動が評価され学校より校旗を寄贈していただくことなど、団体として学校から認められつつある応援委員会指導部ではありますが、発足後数年はとても苦悩したことをつい昨日のことのように覚えています。朝礼や式典で前に出て指揮を執るたびに失笑やヤジが飛び交い、部活動の応

援でもなかなか受け入れてもらえず、自分たちがやりたい応援というのは結局エゴに過ぎないのではないかと考えたこともありました。

応援は伝統を非常に重んじる一方、観客や生徒の気持ちや熱意を敏感に感じ取り、それを選手らに的確に伝える必要がある点で、常に新しく変化することを求められていると考えています。応援委員会指導部が最終的に受け入れてもらえたのは、この応援の性質が「伝統と自由」という本郷の校風に馴染みやすかったからなのではないかと今になって思います。仲間たちとともに自分たちのやりたい応援を追求するのに捧げた本郷高校での三年間は、今でもかけがえのない経験であり、ささやかな誇りです。

現在は大学院にて法律家を目指して勉強をしているかたわら、総勢十八名となった応援委員会指導部の卒部生によって構成されたOB会(青染会)の会長として、応援委員会指導部のバックアップをさせて頂いております。合宿での練習指

OB会通信



左から2人目が私

導や、文化祭での裏方補助、保護者会での講演などの活動の他、卒部生同士の交流会(飲み会)を実施しています。しかし最も重要なことは、本郷の多くの先輩方のように、社会においてそれぞれが活躍することであり、それが自分たちを

育んでくれた本郷や応援委員会指導部への恩返しになると今は考えています。

本郷、応援委員会指導部での経験に改めて感謝するとともに、本郷OBの名に恥じぬようこれからも精進して参りたいと思います。

サッカー部

恩師・阿出川信夫先生は令和2年1月2日に77歳の誕生日を迎えられました。そこで新春恒例のOB会でお祝いをすることにしました。

1月12日(日)、第1部で午前10時より冬期OB戦を楽しみ、引き続き午後1時半から、第2部として「阿出川先生の喜寿の会」を開催しました。ここではOB会会長の風見君より記念品「世界に誇る日本酒」が寄贈され、懐かしい話で時間が過ぎました。

さらに第3部の懇親会では、全国



大会に出場し本郷サッカー部の黄金時代を築いたOBを中心に、阿出川先生を囲んでの語らいに花が咲き、約2時間過ぎてても途切れませんでした。最後に東山君の音頭でOB会の発展を祈念して散会しました。